

第21号

発行 2022年7月1日

編集代表 西本 孝

NOI 岡山通信

日本自然保護協会
岡山県自然観察指導員連
絡会 (NOI: Nature
Observation Instructor)

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

久しぶりに年次総会を対面で開催しました。参加した人たちから積極的な意見が出て、今後の活動が前向きに進められると期待できるような情報交換ができました。

活動は、正常化に向けて歩み始めます。会員の皆さんが、それぞれ興味ある活動に参加するとともに、会員それぞれが地元での活動を活発にできるように協力していきますので、独自の観察会の企画運営、自然保護活動を実施して下さるようお願いいたします。

年次総会の報告 昨年度の報告と、今後の活動を協議、議決した

- 開催日：2022年6月12日(日)
- 報告事項：2021年度活動報告
- 議決事項：2022年度の活動と会計報告
- 中国地方5県交流会(広島県)の第1報
- 自然観察会や協賛行事の計画
- モニタリングサイト1000の活動、身近な環境問題などの報告
- 講習会の開催：岡山県でも自然観察員の講習会を久しぶりに開催し、会員の増加を目指すことで合意した。

中国地方5県交流会(担当は広島県)と第22回自然観察会のお知らせ

- 開催日：2022年9月24日(土)~25日(日)
- 場所：北広島町八幡高原(広島県)
- 内容：西中国山地での生物多様性保全活動の取り組みを視察する。
- 宿泊：安芸太田町の深入山いこいの村
- 申込：西本まで(締切7月末頃)
- 詳細：第一報が届きました(別紙参照)。

今後の活動予定

○主催行事

第23回自然観察会—白賀溪谷の自然

橋本智明

- 日時：2022年10月29日(土) 9~15時
- 集合：富振興センター 9時
- 内容：「岡山県の生物多様性のホットスポットを訪ねて(3)」 白賀溪谷で、それぞれの研究分野の専門家が互いに調査結果を解説しながら散策し、生きものの相互関係について深める機会とする。
- 連絡先：橋本智明 michikusa@mist.ocn.ne.jp

第24回自然観察会—早秋の毛無山の植物

西本 孝

- 日時：2023年4月29日(土・祝)
- 場所：毛無山(新庄村)
- 特徴：早春のブナ林の林床で開花する春植物を観察する。山菜料理の昼食弁当を楽しむ。
- 連絡先：西本 孝：taknishi@js4.so-net.ne.jp

忘年会(または、新年会)

石川和人

飲み屋で実施する予定で、感染状況によって 決定します。詳細が決まればお知らせします。

○協行事—会員が主催する行事に、他のメンバーが協力する行事

Noi 岡山協力自然観察会—岡山市こどもの森

福元隆三

- 日時：11月6日(日) 10時~12時
- 集合場所：岡山市こどもの森
- 活動内容：園内にあるドングリをつける植物の観察と、どんぐりを使った工作
- 参加希望者の連絡先：福元隆三：mimoakayu@docomo.ne.jp
- 子どもたちには好評となりつつある、自然観察会です。

- 行事：セトウチサンショウウオの観察と保護活動
- 日時：3月12日(日)10~12時
- 集合場所：公園の自由広場イベントハウス

- 公園内の用水路とその周辺で生きものを観察する。
- 連絡先：藤原淳子 mutica7o@outlook.jp

活動報告

自然観察会第22回 岡山市こどもの森

福元隆三

6月12日に実施した内容は次のとおりです。

天気：晴、時間：AM10:00~11:30、

参加者：合計65人(子供32人(1-10才)、大人24人、こどもセンター3人、指導員6人)

内容：開会、諸注意、コース：園内半周。

話題：ニホンヤモリ、ヌマガエル、ヒラズゲンセイ、アメンボウ、クスノキ、クリ、スタジイ、ハクモクレン、…

感想：都会の公園、生き物多くてビックリ。指導員の説明、話分かりやすく優しい。野外で親子一緒に良い時間を過ごせた。昆虫やヤモリ、素早くて、捕まえられず残念。

意見：一般参加者、センターの方より、こうした機会を多く作って欲しい。

こどもセンターの片岡絢子さんが当日の様子を報告してくれました。

いきもの観察会

6月12日

昨日は、梅雨が始まる前の爽やかな晴天の一日、親子で生き物観察会に参加しました。

藤棚の下を歩いた時には、真っ赤でクワガタの様なフォルムの格好良い昆虫がたくさん!!「ヒラズゲンセイ」という幻の昆虫だそうです、触ると黄色い毒液を出し、かゆくなるとか…(初めて見たので、親子だけで来ていたら触っていたなと思うとヒヤリ…)木にくくりつけている名札の裏には必ずといっていいほどニホンヤモリや虫が隠れていて、子どもたちも「わー!」「見せて見せて!」と興味深々でした。

用水路にいたアメンボは水あめのおいがる、「クスノキ」は「薬の木」で昔から使われていた、橋の下を覗くとウスカワマイマイが張り付いていて、石をよければ8mm程の綺麗な巻貝の形をした小さなキセルガイ、ドングリの中には初めから虫がいて、穴が開くのはそれが外に出る時にできたもの、栗の木の実の中身は本当は3つ出来るようになっているけれど、大きくなるのは2つだけ、あとの1つは真ん中に仕切りのように挟まれている薄い栗である(へ〜!!)…

いつも子どもと歩く公園の中の道なのに、専門家の方々の解説付きなのは大人にとっても色んな発見があり、なんとも贅沢な特別な時間になりました。

